

一橋大学社会学部連続市民講座 2011

一橋大学社会学部は2011年4月から連続市民講座を再開いたします。

「常識」を問う - 社会科学の多様な視点

一橋大学社会学部は、2011年度も全8回の連続市民講座を開講します。昨年度のテーマである「ローカル、ナショナル、グローバル」とは趣を変えて、いつの時代にも共通するテーマを扱います。また、個人の認識の問題であると同時に、社会的な共有が問題となるテーマを扱います。「常識」に関わる多様な問題を、多様な視点から、多様なアプローチに基づいて吟味し、皆さんの常識とは異なる見方を提供できたら幸いだと思えます。6回以上の出席の受講者には修了証も発行します。今回も幅広い市民の方(たとえば、再び学ぶ意欲を持たれたシニアの方、高校生など好奇心にあふれた方)のご参加をお待ちしています。

■ 2011年度 講座一覧(予定)

日程	担当者	タイトル
4月23日(土)	町村 敬志	常識はなぜ常識なのか—常識の「非-常識」な基盤を考える
5月21日(土)	坂上 康博	スポーツにみる“常識”をめぐって—昭和、女性、2006ワールドカップ
6月18日(土)	若尾 政希	社会通念・常識から時代と社会を読み解く
7月16日(土)	高田 一夫	高齢化の常識と非常識
9月10日(土)	坂元 ひろ子	中国の纏足とモダンガール
10月15日(土)	安川 一	この目で見るまでは信じられない?—視覚社会学への招待
11月12日(土)	大杉 高司	キューバの宗教儀礼から、私たちの「価値」を顧みる
12月17日(土)	村田 光二	「常識」が働く心理過程—社会的ステレオタイプを例として

会場 / 時間

兼松講堂 (一橋大学国立西キャンパス)
時間 / 13:30~15:00

参加方法

参加は無料。どなたでも入場できます。当日、直接会場までお越しください。

問い合わせ先

■ 一橋大学社会学部事務室
TEL : 042-580-8212
E-mail : info@soc.hit-u.ac.jp



東京都国立市中2-1



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

協力 / 一橋新聞

「常識」という用語には、通常の人であれば持っている「一般的知識」という意味と、社会的に適切な思慮分別を行う「理解力や判断力」という「社会的能力」の意味が込められています。常識は、それを共有する人が仲間であり、そうでない人を排除するために働く、という側面もあります。また、ある判断や行動に向かわせる影響力を及ぼすために、しばしば「常識」は利用されるとも考えられます。しかしそれでも、何らかの常識の存在が、他者との社会的関係を調整して、日常生活を円滑に営むことができるようにしているでしょう。

この連続市民講座では、社会科学の多様な領域の研究者が、それぞれの視点で「常識」について検討します。たとえば、特定の「常識」について疑問を提起したり、＜常識＞ということの成り立ちを探求したりします。この第二期2年目の連続市民講座では、日常的でいて、きわめて社会科学的な概念である「常識」について、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。おつきあいくださると幸いです。

村田 光二 一橋大学社会学部長

■ 講座担当教員

町村 敬志 (まちむら たかし) 教授

専門分野は社会学、都市研究。路上や公園、エスニックレストランや商店街から、市民運動や政策形成過程に至るさまざまな現場を横断しながら、グローバル化や情報化、市場中心主義の浸透など現代のマクロな変動に対して、都市と人がいかに対応／対抗してきたのかを研究している。担当科目は「地域・都市社会学」など。



坂上 康博 (さかうえ やすひろ) 教授

専門分野は、スポーツ史、スポーツ社会学、社会史。日本の近現代を中心にしながら、スポーツを文化・社会・政治という広い文脈からとらえるとともに、スポーツを通して文化・社会・政治を読み解く——そんな研究に取り組んできた。担当科目は「身体社会史」「スポーツ社会学の基礎」など。



若尾 政希 (わかお まさき) 教授

専門分野は日本史。従来の歴史研究において無視されてきた書物を史料として、近世人の思想形成のプロセスを明らかにする研究を行ってきた。主著に『「太平記読み」の時代』(平凡社)、『安藤昌益からみえる日本近世』(東京大学出版会)、『地域意識の覚醒』(編著、吉川弘文館)。担当科目は「日本社会史特論」「日本思想史特論」など。



高田 一夫 (たかた かずお) 教授

専門分野は市民社会論。高齢化社会における社会政策(介護サービス・年金・雇用・医療)、労使関係理論、人事管理の日米比較制度論を研究してきた。主著に『高齢化に対する労働組合の挑戦』(第一書林)。担当科目は「市民社会論」「福祉社会論」「現代労働組合論」など。



坂元 ひろ子 (さかもと ひろこ) 教授

専門分野は中国近現代思想文化史。一国史・単性史学を超えた近代史研究をめざす。主編著に『中国民族主義の神話—人種・身体・ジェンダー—』『モダンガールと植民地的近代—東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー—』(岩波書店)、『連鎖する中国近代の“知”』(研文出版)。担当科目は「アジア思想史」「アジア社会史」など。



安川 一 (やすかわ はじめ) 教授

専門分野は理論社会学、視覚社会学。視覚的材料(写真、描画、ビデオ、等々)を手がかりに、私たちが生きる世界の視覚的成り立ちを理論社会学的に探索している。現在の考察対象は、美術館経験、自分イメージ、場の意味、犬暮らし。担当科目は「社会心理学I」「コミュニケーション論」など。



大杉 高司 (おおすぎ たかし) 教授

専門分野は文化人類学。カリブ海地域をフィールドとしながら、宗教、民族間関係、政治、経済といった事象の分析を通して、人類社会の多様性と可塑性を考察してきた。現在の研究のキーワードは、フェティシズム、アイロニー、再帰性、脱文脈化。担当科目は「社会人類学特論」「民族誌」など。



村田 光二 (むらた こうじ) 教授

専門分野は社会的認知研究。心理学実験や質問紙調査を行って、自己や他者の安定した特徴(性格や能力)、一時的な心理状態(感情や意識)をどのように推論し、理解するのか研究してきた。意思決定、自己制御、社会的自己の心理過程にも関心を持つ。担当科目は「社会心理学II」「対人関係心理学」など。

